

# 風の輪

## 丹波の里山づくり

### ゴハンをもりもり、遊び疲れてぐっすり

今から36年前より琵琶湖青柳浜において、毎夏に風の子保育園の5才児の2泊3日のキャンプを行ってきた。子どもたちを引率していつも思うことであるが、自然の豊かな

世界に子どもたちを解放すると、どの子どもも生き生きして遊びに夢中になる。普段からよく乱暴をする子も気弱で情緒的にも不安の強い子も、時間が経つにつれて素直になり、元気になって

ある。この経験が保育園児だけでなく、喧騒の多い都会生活で疲れ、何かと傷つきやすい障害のある子どもや大人たちにとっても、豊かな自然の中で心を癒す場が必要だと痛感した。そして年中利用できる自然生活施設を何とか作り

あげたいという思いに駆られたのである。いま法人が持っている「丹波の家」(昭和63年設置)や「丹波風の家」(平成5年設置)は、こうした思いから実現したものである。この施設には宿泊設備が完備され、職員やボランティアの人たちの手によって畑5枚を開墾している。初夏には蛍狩りや梅採りに、秋には芋掘りを楽しむことができるのも、こうした場所があるお蔭である。



山に囲まれ静かなたたずまいの丹波風の家(手前)と丹波の家(右奥)

本来の子どもらしさが見えてくる。誰もがオヤツを欲しいとは言わないし、テレビが見たいとも言わない。御飯をもりもり食べて、夜は遊びに疲れてぐっすり眠る。これが自然のもつ不思議な魔力と言うものだろう。環境の影響を受けやすい子どもたちだからこそ、効果が目に見えるので

さて、現代の児童や青少年問題の要因の根源は、人間関係の希薄さと自然との遊離が大きいと言われている。人間関係は、家族の絆であり近隣とのつながりを指している。自然との隔たりは、人工化された生活環境である。この二つは、大人も含めての社会病理発生の重要テーマである。人間関係は日常的に努力す

### 丹波の自然が心身の癒しに

ることで改善することができているのを見ても分かる。それだけに私共は、この丹波の里山づくりを大切にしたい。

水仙福祉会の利用者、職員及び、関係する人たちにとって、丹波の自然が心身の鍛錬になり、また心身の癒しになつて、そこから自然を愛し自然に触れることが喜びとなる事を願うものである。